

ベストクラス選定理由書

作成者：岡崎 彩夏、伊藤 博之

科目名称	初等音楽科教育法 (Bクラス)	(担当教員名： 八代 健志)
課程	学部	開講時期 : 前期
授業形態	講義・演習	授業規模 : 81人以上
インタビュー対象教員名	八代 健志 (実施日時：2020/07/28 16:30~18:00； 実施場所：Zoom による TV 会議)	
インタビュー対象受講者名	太田 幸那、柿木 理那 (実施日時：同上 ; 実施場所：同上)	
選定理由	<p>【授業アンケートの自由記述欄より】</p> <p>○大規模授業でありながら、4点満点の3.76の評定平均値は非常に高い。しかも低評価コメントが1つもなかったこともポイントが高かった。</p> <p>○「教員になるにおいての手本」とか、「教育現場と結びつけて使える指導」や「子どもと関わるときに安心して指導することができた」とかとコメントされるような指導がなされていたこと。</p> <p>【教員へのインタビューより】</p> <p>○受講生が将来実際に児童生徒に教授できる学びの提供を目指している。現場での経験を生かし、実際の現場での状況や注意すべき点を具体的に伝えた。音楽の指導に苦手意識を抱く学生にハードルを下げべく、噛み砕いた説明を行ったり、具体的な授業方法の提示などを行ったりした。</p> <p>○毎授業の冒頭で「アイスマルティング」と称し、傾聴の仕方「おへそ」、お手合わせなどを行ったり。</p> <p>○毎授業の最後で「シェアペーパー」と称するものに、受講生にリフレクションとともに反省点や改善点を記入してもらい、それを次の授業の冒頭で共有するなどフィードバックを実施した。</p> <p>○受講生が能動的かつ楽しく行えるよう、発言を求める際には、意見を否定せずパスも容認し、それらを返した受講生には全体で拍手することを指導した。受講生が理解しやすく興味を持つような説明やPPTの工夫、意思を表出する場を受講生全体に与える工夫、TAさんとの連携などを行ったり。</p> <p>【受講生へのインタビュー】</p> <p>○アイスマルティングの時間は授業へのやる気や、受動的から能動的な姿勢への変化につながった。</p> <p>○先生の姿勢や、パスの容認・拍手などのルールにより、発言しやすい雰囲気が出来上がっていた。</p> <p>○室外で自然の音を絵や言葉で自らが表現して共有するという授業には、授業の概念を覆された。</p> <p>【総括】</p> <p>この授業は、大規模授業でありながら、受講生個々のやる気や安心感、共に授業を創造している感覚が引き出されるものであった。そのために、冒頭のアイスマルティングやシェアペーパーの共有・次回以降の授業への活用、発表の際のパスの容認・拍手の要請、受講生が理解しやすく興味をもつような説明やPPTの工夫、受講生全体に意思を表出する場を与える工夫などがなされ、TAと連携しながら円滑に授業が行われていた。また、受講生が将来実際に生徒に教授できる学びの提供を目指し、教員自らの経験を生かした実際の現場での状況、注意すべき点が伝えられたり、室外で授業を行ったりなど様々な授業方法の体験が実施されていた。これらは、将来の学習者に音楽の機会が与えられるように、受講生の音楽に対する苦手を払拭したいという願いに基づくものでもあった。以上のことから、ベストクラス選定候補としてふさわしい授業であると考えられるためこの科目を推薦する。</p>	